

(40)

JA 0214101
SEP 1991

(54) CLOSED PACKED LENS ARRAY

(11) 3-214101 (A) (43) 19.9.1991 (19) JP

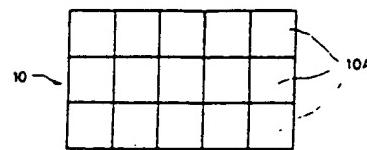
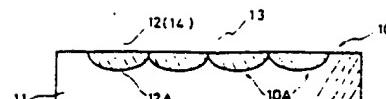
(21) Appl. No. 2-9176 (22) 18.1.1990

(71) NIPPON SHEET GLASS CO LTD (72) HIROSHI WADA

(51) Int. Cl. G02B3/00

PURPOSE: To obtain nearly 100% condensing efficiency by arranging and forming many recesses, the bottom wall of each of which has a curved shape, in a close-packed state in which the recesses are in contact with each other with the ridge lines of the flatly viewed polygonal shape as boundaries on at least one surface side of a flat plate transparent substrate.

CONSTITUTION: The many recesses 12, the bottom wall surface 12A of each of which has the curved surface, are formed on one surface side of the flat plate substrate 11 consisting of a transparent material. The transparent material 14, such as resin or glass, having the refractive index larger than the refractive index of the substrate 11 is packed into the respective recesses 12 to form the respective lens parts 10A of the lens array. The entire part of the surface is thereafter finished to a flat surface, by which the lens array 10 is obt. The respective lenses 10A constituting the lens, therefore, line up closely in the repetitive patterns of the polygonal shapes and the non-lens parts in the conventional products are eliminated. The incident light to the glass substrate is condensed by any lens regardless of the incident positions thereof and the light spot array is obt. with the nearly 100% condensing efficiency.



⑫ 公開特許公報 (A) 平3-214101

⑤Int.Cl.³
G 02 B 3/00識別記号 庁内整理番号
A 7036-2H

⑥公開 平成3年(1991)9月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑦発明の名称 潤密充填レンズアレイ

⑧特 願 平2-9176

⑨出 願 平2(1990)1月18日

⑩発明者 和田 弘 大阪府大阪市中央区道修町3丁目5番11号 日本板硝子株式会社内

⑪出願人 日本板硝子株式会社 大阪府大阪市中央区道修町3丁目5番11号

⑫代理人 弁理士 大野 精市

明細書

1. 発明の名称

潤密充填レンズアレイ

2. 特許請求の範囲

平板状の透明基板の少なくとも片面側に、底盤が曲面を成す凹部の多数を、平面視で多辺形の接線を境界として接する潤密充填状態に配列形成し、これら凹部に前記基板とは屈折率の異なる透明材料を充填してなる潤密充填レンズアレイ。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、多数の微小レンズを一次元ないしは二次元的に配列したレンズアレイの改良に関し、特に、集光効率が高くしかも製作が容易なレンズアレイの構造に関する。

[従来の技術]

ガラス、プラスチック等の透明基板に、多数の微小レンズを配列形成したレンズアレイは、画像の読みとり、記録、表示など広い分野で急速に利用されるようになってきている。

特に、光屈折曲面を基板表面に突出形成するかわりに、レンズ部分の屈折率を基板の屈折率とは異ならせ、基板表面側のレンズ面は基板と面一の平坦面とともに、光屈折曲面側を基板の内部内に位置させた平板レンズアレイ（以下単に「レンズアレイ」と呼ぶ）は、表面が平面であるため他の光学部品との結合や組立が容易であるという大きな利点がある。

上記のようなレンズアレイを製作するに当たっては、従来以下に述べるような方法がとられていた。

まずガラス基板表面に露着、スパッタリング、メカ等でNi、Au、Cr等の耐熱性保護被膜（マスク膜）を形成し、このマスク膜のレンズ位置に、周知のフォトリソグラフィ技術を用いて円形の開口を設け、このマスク面に沸盤、硬盤、鋼盤の混合浴液等のガラスエッチング液を接触させて、上記開口を通してガラスを等方向にエッチングする。

適当時間のエッチング処理の後、得られた新面が

配列で開口9を形成する。この開口9の形状は最終的に得ようとするレンズの平面形状によらず円形であってよい。またその径はレンズ径に比べて十分小さくしておく。

次ぎに上記の被覆ガラス基板を、希酸、硫酸、塩酸の混合液等のガラスエッティング浴液に浸して化学エッティングを行う。この処理により被覆膜の開口9を始点としてガラス基板の表面が等方的にエッティングされ、第5図(ロ)のようにはば半球状をなした凹部12Bが得られる。この第1段階のエッティング処理は、隣接する凹部12B間に若干の幅をもった平坦な境界部23を残した状態で止める。

次いでガラス基板表面から被覆膜8を除去した後、ガラス基板表面全体をエッティングする。この第2段階エッティング処理により、第5図(ニ)のようになに凹部12Bの底壁は緩やかな曲面となり、また側壁でのエッティングが進行して、隣接凹部間の境界部23は上端が先鋒な棱鏡13となる。すなわち平面視でそれぞれが同一の多辺形(千鳥配列の

場合六角形)をなし隣接凹部四辺が密接した網密充填配列となる。

なお、当初の凹部12Bは円形であるから隣接凹部間の境界部の幅は一様ではないが、上述した第2段階エッティングで、最も幅の大きな境界部分が上端先鋒な棱鏡13を形成するまでエッティングをおこなっても、最も幅の小さな境界部分が消失してしまうことはなく、第7図に示すように断面視で中央が若干凹んだカーブを成す境界壁23が残る。上記の2段階エッティング処理の後、凹部12に基板ガラスよりも屈折率の大きな樹脂等の透明材料を充填する。

以上本発明を図面に示した実施例について説明したが、実施例以外に種々の変更が可能であることはいうまでもない。

例えば、図示例ではレンズアレイのパターンとして正方格子及びハニカムについてのみ示したが、形状に特に制限はなく、長方形、正五角形と正六角形の集合体等でも良い。

また凹部レンズは基板の片面側だけでなく両面に

形成してもよい。

[発明の効果]

本発明によれば、従来のレンズアレイでは集光されずにそのまま透過していた光も有効に集光され、ほぼ完全な集光効率で光点アレイを得ることができる。したがって、固体撮像素子や液晶表示装置への適用において従来のレンズアレイよりも優れた性能を実現することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す断面図、第2図は本発明のレンズアレイのパターンの一例を示す平面図、第3図は本発明のレンズアレイの他のパターン例を示す平面図、第4図は本発明のレンズアレイの適用例を示す断面図、第5図(イ)ないし(ニ)は本発明に用いるレンズアレイ基板の製作方法の一例を段階的に示す断面図、第6図は第5図の製作方法で基板ガラスに形成するエッティングマスクのパターン例を示す平面図、第7図は第5図のエッティング方法で得られる凹部境界の形状を説明する断面図、第8図は従来のレンズアレ

イの問題点を説明する平面図である。

- 8 . . . エッティング保護被膜
- 9 . . . 開口
- 10 . . . レンズアレイ
- 10A . . . レンズ
- 11 . . . ガラス基板
- 12 . . . 凹部
- 13 . . . レンズ境界棱鏡
- 14 . . . 透明充填材料
- 20 . . . 液晶表示パネル
- 21 . . . 透光窓
- 22 . . . 不透光部
- 30 . . . 照明光

特許出願人 日本板硝子株式会社
代理人弁理士 大野精市

第 8 図

